

苫小牧市美術博物館の魅力を伝える

びとこま 号外

企画展 **藤沢 レオ**

スタイル・リビング

- Still Living - 特集号

目次

ふじ さわ **藤沢レオ**さんに取材したよ!

インタビュー / 展覧会のみどころ!!

制作ワークショップ

とまこまいしな **苫小牧市内にある 藤沢レオ 野外彫刻作品**

さくひん 作品づくりの
お手伝いにチャレンジ!



びとこまって何?

こ こうほうぶ とまこまい ぶんかげいじゆつ みりよく はっしん こうほうし せいさくかつどう じく さく
 子ども広報部「びとこま」では、苫小牧の文化芸術の魅力を発信する広報紙の制作活動を軸に、作
 ひん かんしょう しゆざい へんしゅう さまざま かつどう びいん とま
 品の鑑賞やアーティストへの取材、編集やデザインなど様々な活動をしています。部員である苫
 こまい きんこう しょうちゆうがくせい こ きしゃ えぬびーあーほうじんたるまえあーていーびらす がくげいいん とも びじゆつ
 小牧や近郊の小中学生の子ども記者たちが、NPO法人樽前arty+のメンバーや学芸員と共に、美術
 はくびつがん てんらんかい とまこまい やがいちようこく しゆざい こうほうし せいさく
 博物館の展覧会や苫小牧にある野外彫刻などを取材し、広報紙「びとこま」を制作しています。

ふじさわ ひ ころせっきょくてき おこな
Q 藤沢さんが日頃積極的に行っている
ワークショップでは、どんなことを感じていますか？

ぼく にちじょう ちい へんか お ひび く すこ ちが ちた
 僕はいつも日常に小さな変化を起こすことで日々の暮らしが少し違ってみえたり、豊
 かになったり、そんなことができないかということを考えてながら色々なワークショッ
 プを行っています。これは、僕の作品のテーマとも共有しています。ワークショップは、
 みんなにいろんなことを考えてもらいたいということもあるけれど、作品をつくるた
 めの僕自身の考えをひろげられることとして大切に考えています。

インタビュー

藤沢レオさんに取材

てん かい
展覧会のみどころ!!

がつ にち にち かつどう
 9月23日(日)のびとこまの活動では、
 きしゃ てんじじゅんびちゆう てんじしつ しゅざい
 記者たちが展示準備中の展示室を取材しにいきました。
 じゅんびま ただなか てんじしつ
 準備真っ只中の展示室にみんなそわそわわくわく。
 こども きしゃ しゅざい てんらんかい みどころ つた
 子ども記者たちが取材した展覧会の見所をお伝えします!

ふ ざい もり
《不在の森》

てんじょう いと つく もり いと なか ひと ふうけい
 天井に糸をたらしして作る森。ピンクにそまる糸の中には、それをよけながらすすんでいる人。そんな風景、
 かんが 考えたことはありますか？形のない重力は、糸をもたらすことから見えてくる。ふだん、重さというもの
 かん いと おも み
 を感じない糸だって、重さが見えてくる。

はなしし えだ ほん お ほん お ちい
 こんな話知っていますか？枝は1本だとすぐ折れる。3本だったらなかなか折れない。レオさんは、「小
 さくても、たくさんだと大きなものになる」をテーマにして作っています。糸をなん本もたらすから、大
 きくなる。それを何個も作ると森のように大きくなる。その中を歩き、進んでいく人まで作品になる。

おがわ
 (小川さくら)

ふだん おも き しゅうりょく
 普段は思わないことに気づく。重力があることや、
 いと おも き さくひん
 糸に重さがあることに気づくことができる作品。

あべ たかこ
 (阿部多香子)



イラスト：小川さくら

いと つく さくひん
 糸をたらしして作る作品がある。それは、
 たね かんが かんが くら もり
 種のような形をしている。暗くして、森
 ふじさわ
 のイメージにしたいと藤沢レオさんは
 い さくひん ぞくち
 言っていた。その作品は、出口をなくし、
 もり まよ かん だ
 森に迷っているような感じを出し、「あ
 えて ぶん わたぬきり さ
 えて」不便にするそうだ。(綿貫里咲)

ふじさわ いのち あさ
 藤沢レオさんは、「ピンク」は「命」や「朝やけ、
 ゆう いろ かんが
 夕やけ」の色と考えているそうだ。

わたぬきり さ
 (綿貫里咲)

キラッ



したよ!

藤沢レオは...

かんが ひと
『考える人』

さくひん
 作品をつくることはもちろん、色々とも見
 き かんが かんが す
 聞きして、じっくり考えることも好きなの
 さくひん まえ
 かも。みなさんも作品を前にしてゆっくり
 いっしょ かんが
 じっくり一緒に考えてみてください。



樽前arty+メンバー
 千葉 和魂

藤沢レオは...

ひ つ ひと
『惹き付ける人』

いつもレオさんの周りには、作品や人柄に
 まわ さくひん ひとがら
 魅せられ、惹き付けられた大勢の人たちが
 み ひ つ おおぜい ひと
 たつくさん! 自分もその一人。皆さんもレオさ
 じぶん ひとり みな
 んの作品に惹き付けられ、感じてください。



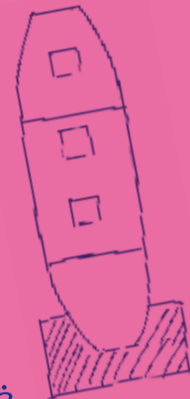
樽前arty+メンバー
 堀米 和克

Q びとこま記者と一緒に作った制作ワークショップについて教えてください。

みんなに参加してもらったのは、僕が柱をイメージして描いたかたちに、青いボールペンで色を塗る作業です。僕の最近の作品には「柱をたてる」イメージが繰り返してできます。ここには、私たちの祖先がはじめて大地に棒をたてたとき、そのささやかで力強い行為が新たな世界を切り拓くきっかけになったという物語をこめています。柱をたてることもボールペンで色をぬることもそれほど難しい作業ではないかもしれないけれど、はじめることで新しい世界が広がっていく体験をみんなでも共有してみたいと思いました。

Q 最後に、子どもたちにメッセージをお願いします！

いろいろな大きさで、いろいろな素材を使った、いろいろな部屋があるので、歩きまわって、楽しんで、体験してください！



イラスト：小川さくら

意外に大変だった。ボールペンでこつこつ描いていく作業は、期間はどれぐらいかかるのかと思った。

ヌリヌリ...

綿貫里咲

阿部多香子

カキ

カキ

小川さくら

カリカリ...

作品づくりのお手伝いにチャレンジ！制作ワークショップ

子ども記者

ボールペンでまっさおにするのは、とても大変なことだけど、みんなで作ると完成できるから楽しかったです。みんな線をかけるけれど、人それぞれに個性がでていました。

最終的にどんな作品になるのか楽しみ！

カキ

カキ

カキ

設営現場取材した後は、展示会場で製作。蛍光ピンクの板に、青いボールペンで色を塗っていくという作業。ワークショップ形式でレオさんに教えてもらいながら、夢中で色をぬりました。途中からは、記者の保護者の方にも加わってもらいました。

ヌリ

ヌリ

自分の世界に入り込んで夢中で色をぬりました。

かんせい完成！

カリカリ...
ヌリヌリ...
大人たちも夢中!!



2F 『展望ロビー』では、梅前arty+やびとこまの活動コーナーがあるよ!!

藤沢作品に登場する「青い柱」について

企画担当 細矢 久人 学芸員

今回、びとこま記者のみなさんには、青い油性ボールペンの線を交差させて「柱」を描いてもらいました。「柱」は展示中の多くの作品に登場しますが、それは藤沢さんにとって「場」のもつ意味を変え、新たな物語をつくりだすスイッチのような存在なのだといいます。

「青」にも特別な意味があり、そのもとになるイメージがブルーシートの「青」なのだそうで、事故や災害などにあっても、そこからまた新たな「場」をつくりだして生きていく人間の生命力が想定されているといいます。

みにいこう!!

とまこまいしない

ふじ さわ や がい ちょう こく さく ひん 苫小牧市内にある 藤沢レオ 野外彫刻作品

① とましんスタジアム
 ひかりにわねん **光の庭 (2017年)**
 きゅうじ たくさんの球児があつ ばしよ つく 集まれる場所を作 りたくて、広場の さくひん ような作品にした そうです。

② 苫小牧港開発(株) 不動産営業部用地営業課
 しよしねん **初志 (2018年)**
 おお せいちょう かいしゃ しょうらい おも これからも大きく成長する会社の将来を思って つく わか ちから かつやく 作られました。若い力が活躍するイメージ。

③ 出光カルチャーパーク
 しろねん **のぼうの城 (2011年)**
 りょうわき は ほん き さくひん いちぶ モニュメントの両脇に生えている2本の木も作品の一部です。 き そだ えいが どうじょう じょうもん 木が育ったら映画に登場した城門のようになるイメージ。

来たね!
びとこま部員
大募集!!

子ども広報部びとこまでは、見学なども随時受け付けています。活動日は、美術館HPをご覧ください。

特集
 企画展 **藤沢レオ**
 Still Living

▼観覧料 / 一般300(240)円
 高大学生200(140)円
 中学生以下無料。
 ※()内は10名以上の団体料金です。

▼日時 / 11月3日(土・祝)
 ① 10時〜11時30分
 ② 13時〜14時30分
 ▼料金 / 500円
 ▼定員 / 各回10名
 ▼対象 / 小学3年生〜
 ▼お申し込み / お電話で

レクチャー&ワークショップ
 500万年後の私
 「鉄たたけます。」

びとこま号外 (2018年10月発行)

【執筆】 子ども広報部「びとこま」(阿部多香子、小川さくら、綿貫里咲、苫小牧市美術博物館・NPO法人樽前artyプラス)

【イラスト】 小川さくら(子ども広報部「びとこま」)、小河けい(NPO法人樽前artyプラス)

【紙面デザイン】 堀米和克(NPO法人樽前artyプラス)

【編集】 苫小牧市美術博物館、NPO法人樽前artyプラス

【発行】 苫小牧市美術博物館 (苫小牧市末広町3丁目9-7)

苫小牧市美術博物館 [愛称:あみゆー]

〒053-0011 北海道苫小牧市末広町3-9-7
 TEL: 0144-35-2550 FAX: 0144-34-0408
<http://www.city.tomakomai.hokkaido.jp/hakubutukan>

ぜひ、ご来場ください!!

イラスト: 小川さくら